

令和4年度（2022年度）版
環境基本計画年次報告書

～東海市の環境の現状と施策の展開～



東 海 市

令和5年（2023年）1月

目 次

成果指標の評価

| | | |
|----|---------------------------|----|
| 1 | 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況 | 1 |
| 2 | 成果指標評価表 | |
| 柱1 | 環境教育 | |
| ・ | 分野1 環境教育 | 2 |
| 柱2 | 環境対策 | |
| ・ | 分野2 大気・ばいじん | 4 |
| ・ | 分野3 悪臭・騒音 | 5 |
| ・ | 分野4 水質 | 6 |
| 柱3 | 環境保全・再生・創造 | |
| ・ | 分野5 地球温暖化対策 | 8 |
| ・ | 分野6 環境美化 | 9 |
| ・ | 分野7 緑・水・生き物 | 11 |
| 柱4 | 循環型社会 | |
| ・ | 分野8 3R活動 | 13 |
| ・ | 分野9 適正排出・処分 | 15 |

参考資料

| | | |
|---|-----------------|----|
| 1 | 環境基本計画の概要 | 17 |
| 2 | 環境の柱ごとの基本的な施策 | 19 |
| 3 | 成果指標の算出方法 | 21 |
| 4 | 成果指標一覧表 | 23 |
| 5 | 計画推進の検討過程 | 25 |
| 6 | 環境基本計画推進委員会委員名簿 | 26 |

成果指標の評価

1. 重点プロジェクト「環境教育」の実施状況

(1) エコスクール

エコスクールは、新型コロナウイルス感染症の影響（※）により、令和2年度（2020年度）に引き続き一部講座の中止及び定員制限は行ったものの、感染症対策を徹底し開催に取り組んだ結果、実施講座は23講座（対前年度5講座増）となり、参加者数も751人（対前年度151人増）と増加しました。

また、大人向け講座の「省エネ・節電！上手な電気の使い方講座」及び「3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～」を初開催し、地球温暖化対策の啓発推進や幅広い年齢層に向けた環境学習の充実を図りました。

(2) 環境イベントによるきっかけづくりと仲間づくり

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）に引き続きリサイクルフェアや東海秋まつりにおける環境ひろばなどのイベントが中止となりました。

(3) ふるさと再生を目指して ～いきものの生息空間の保全・再生～

ア 加木屋緑地において、「21世紀の森づくり事業」で市民植樹した在来種の樹木の育成管理に努めている他、オニヤンマ、メダカ、ヘイケボタル、アサギマダラ等の生息環境の確保のため、ビオトープの造成や保全、再生に取り組みました。

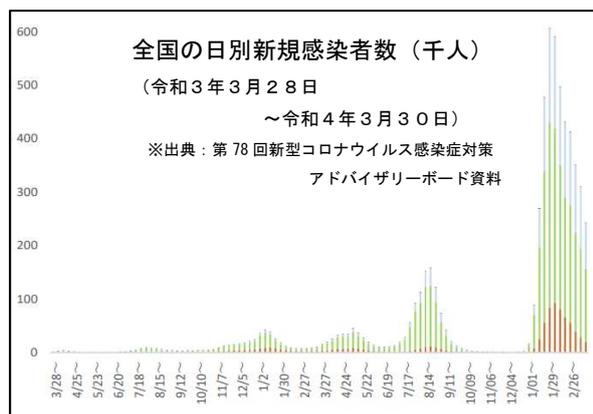
イ 生物多様性の保全の観点から、新宝町におけるアルゼンチンアリの駆除を毎月実施するとともに、市に広く分布するオオキンケイギクの駆除に関して、コミュニティを通じての啓発及び広報紙への記事掲載やパンフレットの配布による啓発に取り組みました。

(4) 生活情報アプリなどによる情報提供

生活環境課のホームページの内容を整理し検索性を向上させるとともに、掲載情報を充実しました。また、生活情報アプリ、コミュニティFM、ホームページ等でのごみの分別・リサイクル情報等の環境情報を発信した他、広報紙や太田川駅前デジタル掲示板に環境情報、エコスクール情報等を掲示しました。

※参考情報：新型コロナウイルス感染症の本市及び全国における感染者数

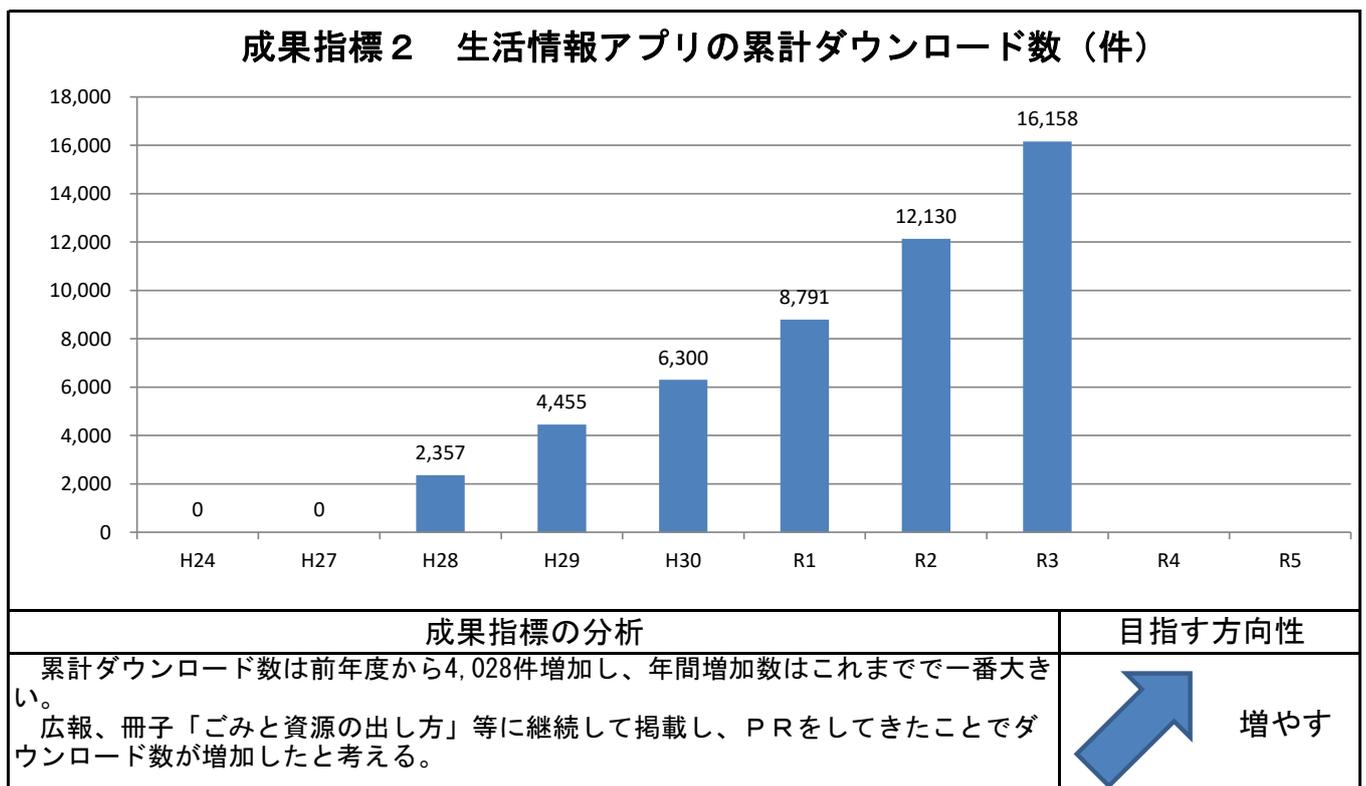
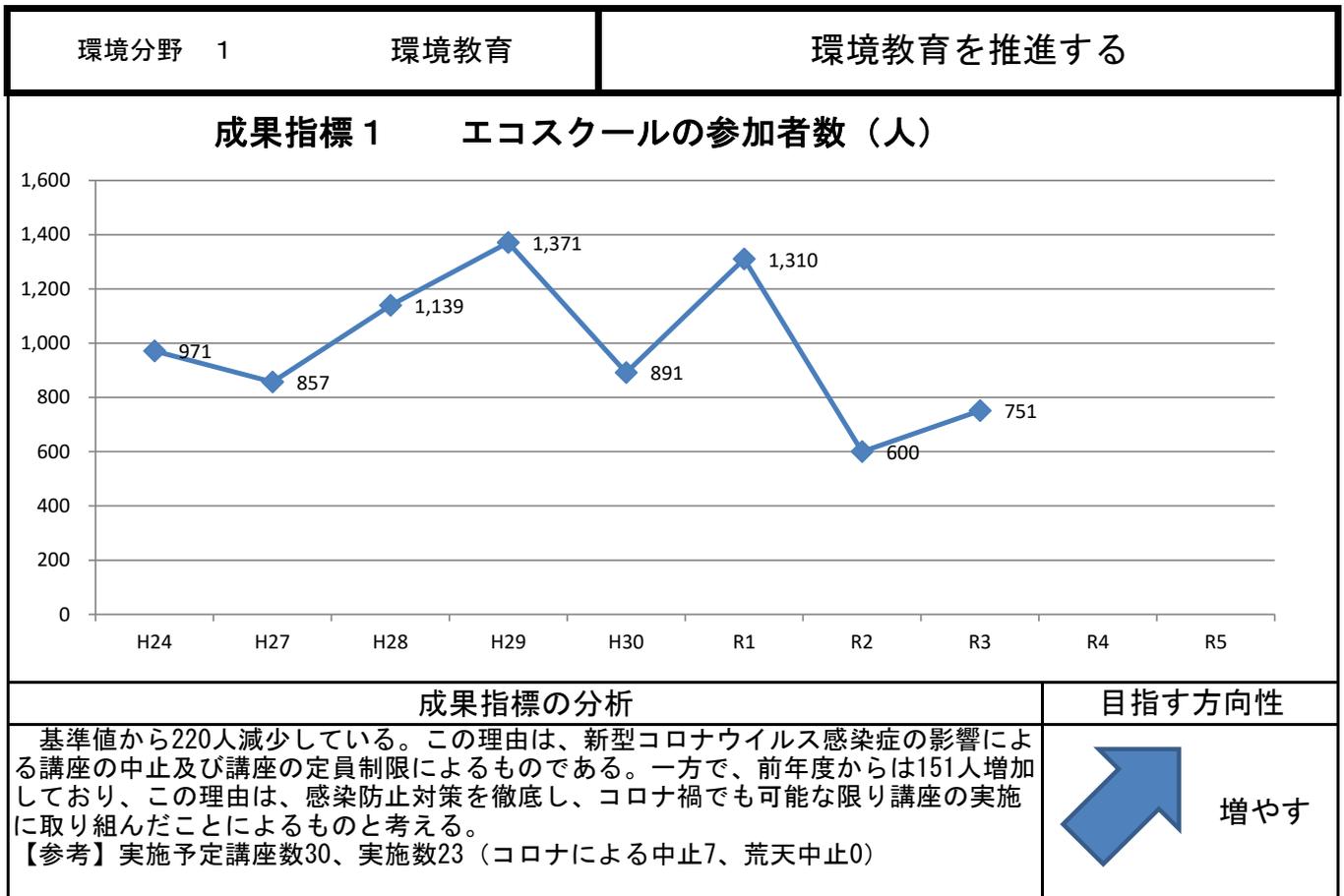
東海市の令和4年3月31日時点
感染者数延べ人数 6,666人
(令和3年3月30日時点
343人)
※市ホームページ情報



2 成果指標評価表

基準値はH24数値。目指す方向性の欄は、目標値(R5の数値)がある場合はその数値を記載し、目標値がない場合は矢印で方向性を示すもの

環境の柱 1 環境教育



1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

エコスクールの実施にあたり、新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底するとともに、コロナ禍でも実施可能な形を検討し、実行する。また、密を防ぐ必要性から参加者数の拡充が難しいことを踏まえつつも2部制での開催など、参加者が少なくならないよう工夫をする。

近年の環境教育の時流に沿い、SDGsやマイクロプラスチック対策に関連したエコスクールを開催する。

エコスクールの変更したアンケートの集計結果を踏まえ、講座内容の充実につなげる。

アプリに限らず、ホームページや広報等の情報発信媒体を活用し、啓発につなげる。

ごみの減量に向け、引き続き様々な媒体でのPRを行う。

2 令和3年度（2021年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）エコスクール開催補助事業

市内や市外でエコスクールを開催するために、エコスクール実行委員会へ補助を行った。

(1) 実施講座数 23講座

(2) 参加者数 751人

●（継続）3R活動啓発事業

スマートフォンの普及に伴い、市民生活情報をアプリケーションシステム「東海なび」により発信した（発信情報：イベント情報、ごみに関する情報、避難所情報、公共施設情報等）

【成果】

●地球温暖化対策のため、「省エネ・節電！上手な電気の使い方講座」を初開催した。参加者数は15名であったが、全員が60歳以上であり、高齢者層というこれまでにない層に参加いただいた。

●基本計画推進委員会で検討した新様式のアンケートを開始し、事務局講座及び公募講座において「満足」・「やや満足」と回答した割合が96.5%と非常に高かった。

【改善点】

●生活環境課のホームページをリニューアルし、見やすさ、情報量等を改善した。

3 令和3年度（2021年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

エコスクールについて、コロナ禍であるが感染防止対策を徹底し、可能な限り開催をしたこと及び参加者の年代を広げようとしたこと、活動結果をホームページに掲載したこと、アンケート様式を統一し分析や活用を図ったことは前年度からの改善内容として評価できる。活動報告の充実やアンケートを実施する講座の増加について今後も改善を続けてほしい。

エコスクールの募集方法として、令和3年度の申込の課題点を踏まえ、エコスクールの申し込みについて、今までの申込方法の良さを継続しつつ、ネットやスマホで受付できるようにするとよい。

コロナ禍でエコスクールの参加者の指標が大きく減少している。以前の委員会意見を踏まえ、指標を「アンケートによる満足度」にすることを検討したが、令和3年度結果において満足度が90%を超えており、向上させていくことが難しい等の課題があることから、継続して検討をしていく必要がある。

4 令和4年度（2022年度）以降の取組み方針

・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底してエコスクールを実施し、参加者数の増加に努めるとともに、アンケートによる満足度等の把握に努め分析をすることで、ニーズを捉え、より良い講座を開催していく。

・エコスクールの申込をWEBから受付できるようにして参加希望者の利便性を向上させるなど、DX（デジタルトランスフォーメーション）を環境学習にも活用していく。

・SDGsやゼロカーボンシティなどを含めた環境学習全般について、ホームページや広報等の情報発信媒体を活用し、より一層の啓発を進める。

・令和5年度（2023年度）に市域全体の地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定を予定していることを踏まえて、地球温暖化に係るエコスクール講座を充実させる。

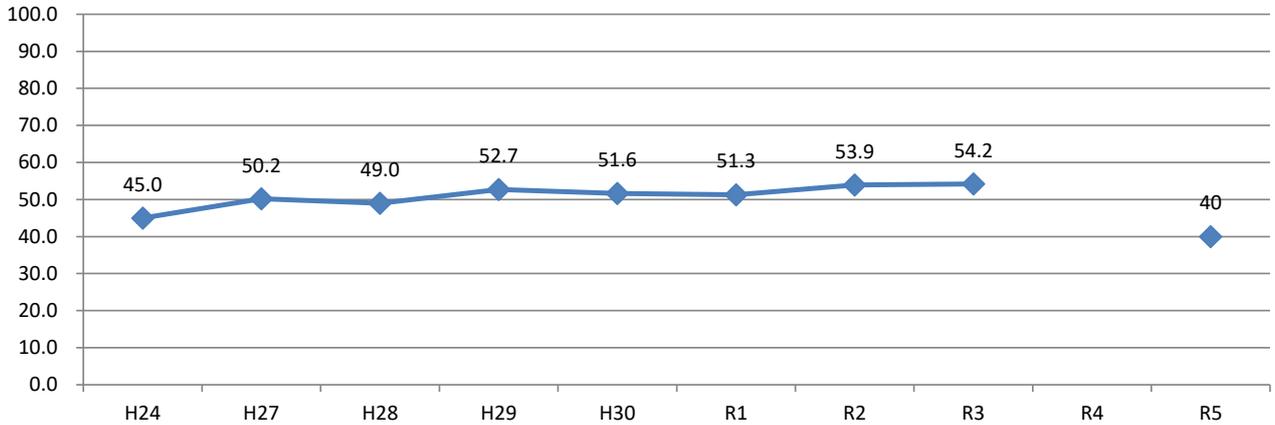
・公園等を活用したエコスクールや、地域清掃の若年層への意識づけとしての学校等への出前授業など、指標の向上に繋がる様々な環境学習を検討していく。

環境分野 2

大気・ばいじん

きれいな空気を守る

成果指標3 大気汚染などにより、日常生活に支障があると 感じている人の割合(%)



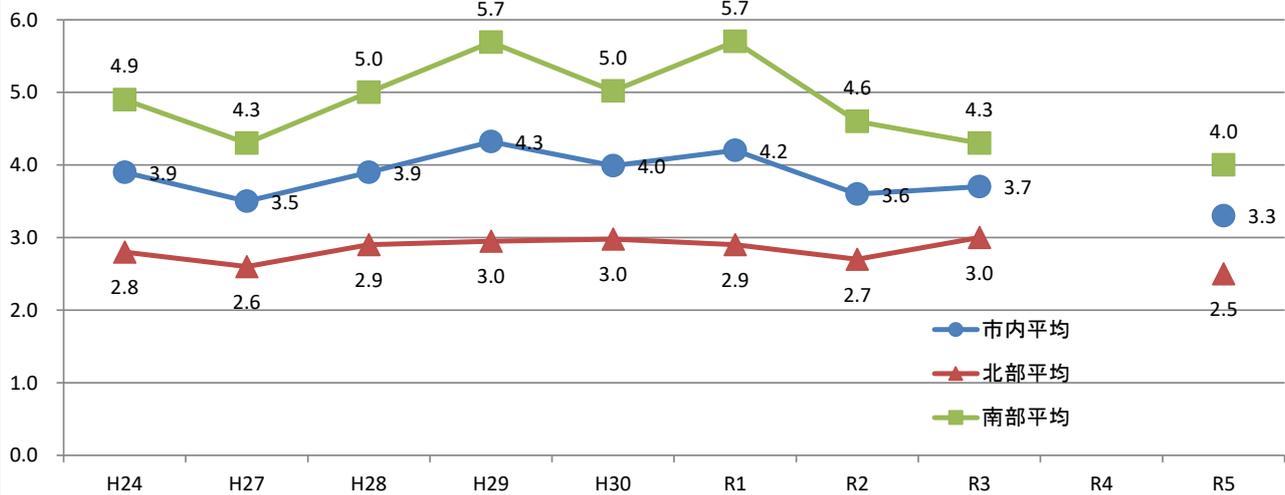
成果指標の分析

基準値と比べ9.2ポイント悪化しており、順調でない。「降下ばいじんの量」が基準値から改善している一方で、本指標が悪化し続けていることから、大気汚染や降下ばいじんに対して市民の関心が高まっているものと考えられる。市民アンケートでは、子育て世代や市南西部地区の割合が高くなっている。

目指す方向性

40%

成果指標4 降下ばいじんの量 (t/km²・月)



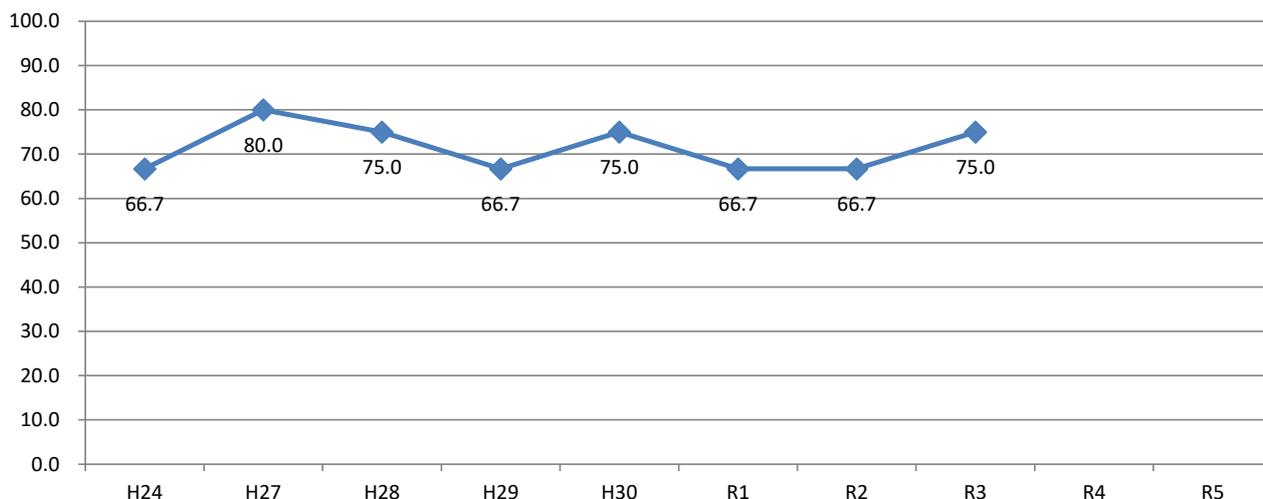
成果指標の分析

基準値から0.2ポイント改善しており、臨海部企業の対策により一定の効果が出ているものと考えられる。例年と同様に、北部平均と比べて南部平均が高くなっているが、R3年度は差が少なくなっており、風向風速等の気象条件によるものと考えられる。

目指す方向性

3.3t/km²・月(市内)
2.5t/km²・月(北部)
4.0t/km²・月(南部)

成果指標5 環境騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

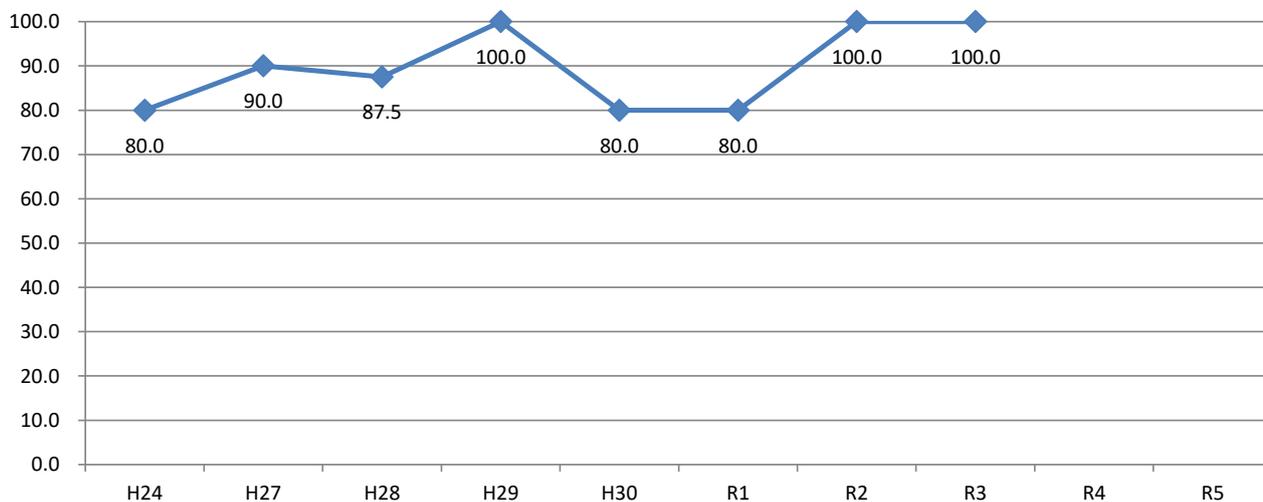
基準値及び前年値より8.3ポイント増加しているが、横ばい傾向と考える。例年と同様に、昼間時間帯（6-22時）に比べて基準値が厳しい夜間時間帯（22-6時）の適合率が低い。

目指す方向性



増やす

成果指標6 自動車交通騒音基準値の適合率(%)



成果指標の分析

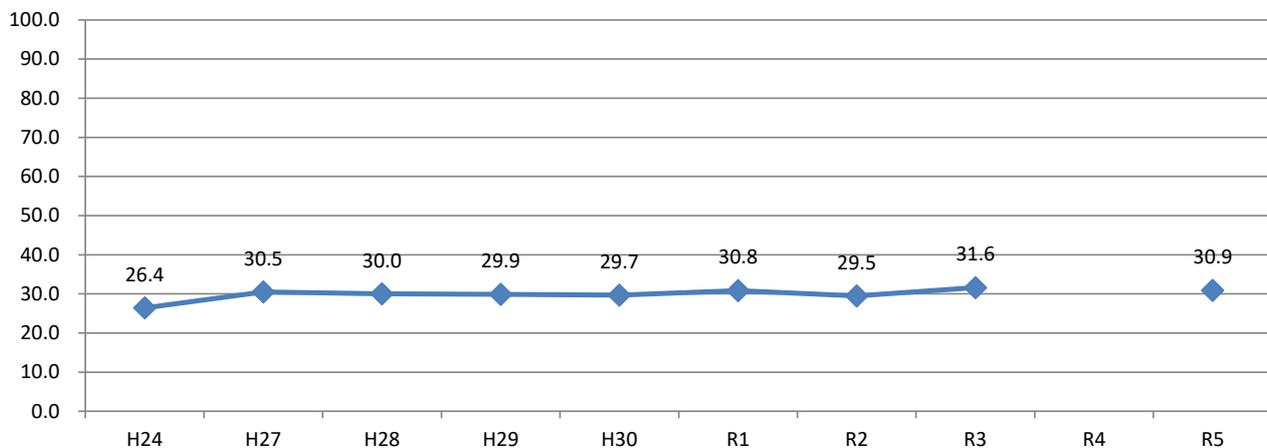
昨年度に引き続き、全地点で適合し100%となっている。毎年度80%から100%の間で増減を繰り返しているが、順調に推移している。

目指す方向性



増やす

成果指標7 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合(%)



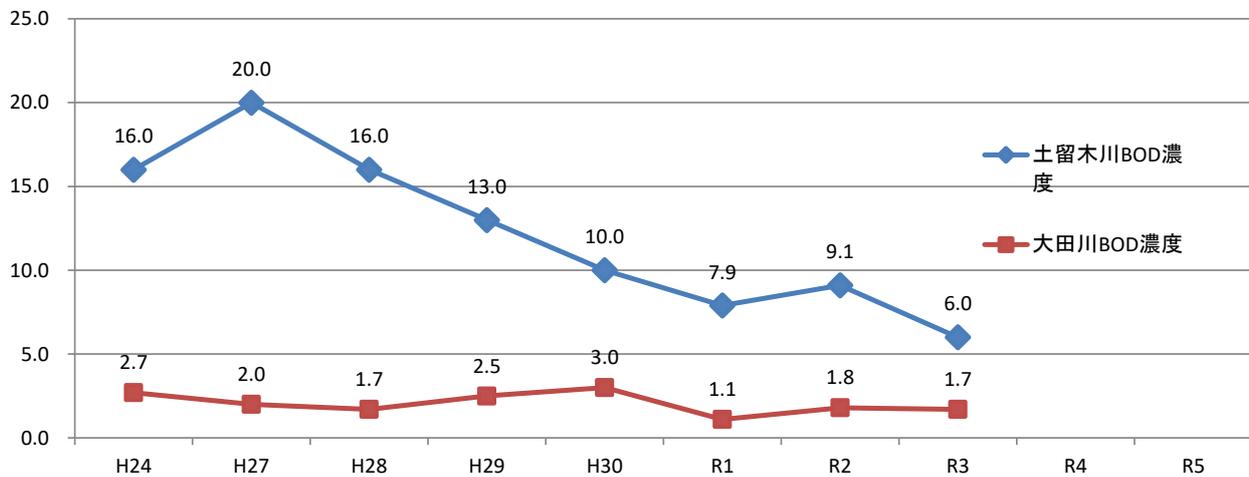
成果指標の分析

目指す方向性

基準値と比べ5.2ポイント増加し、目標値を超えて順調である。
 年齢別では、50歳代以上の方の割合が高く、40歳代以下の方は割合が低いことから、昔に比べると川の水は大幅にきれいになってきているが、若年層などを中心に十分だと感じていない人が多いと考える。

30.9%

成果指標8・9 河川のBOD濃度(mg/l)



成果指標の分析

目指す方向性

土留木川は、基準値と比べ10ポイント改善しており、下水道接続率の向上により改善傾向にあると考える。
 大田川は、基準値と比べ1.0ポイント改善しており、下水道整備が十分に進んでいることから、低い数値で推移していると考えられる。



減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

引き続きこれまでの対策を継続しつつ、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進めていく。

また、事業者が市民に対し取組の成果を説明する機会を増やすよう、市から事業所に対して働きかけるとともに、市として広報やホームページを活用し、事業所の降下ばいじん対策の紹介を実施していく。

2 令和3年度（2021年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）大気分析事業

大気汚染自動測定器による大気環境測定及び降下ばいじん等の個別の項目における測定を実施した。環境基準のある項目については、光化学オキシダントを除き適合した。なお、光化学オキシダント、愛知県の全測定局において基準値未達成。

●（継続）騒音測定事業

市民に住みよい環境を保全するため、騒音測定をした

- ・環境騒音測定 6地点 基準値適合率 75.0%
- ・自動車騒音測定 5地点 要請限度適合率 100%
- ・自動車騒音の面的評価（道路調査、騒音調査）
基準値適合率 94.6%
- ・夜間工場騒音測定 7事業所 全事業所において協定値適合

●（継続）臭気分析事業

空気のきれいな住環境を維持するため、臭気を測定し、事業者の対策状況を確認した

- ・測定方法 三点比較式臭袋法による測定
- ・測定地点 6地点（2事業所）全測定地点において規制値適合

●（継続）水質分析事業

住みやすい環境を維持するため、河川、ため池、事業所の水質を分析した

- ・分析内容 河川(8地点)、ため池(16地点)、工場排水(15地点)の水質分析

3 令和3年度（2021年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

降下ばいじんについて、市内事業所は削減対策を行っているが、市民にはそれが十分周知されていないと感じる。企業の取組みについて見える化をすることで市民理解が深まると考えられるため、市から事業所に働きかけを行うとよい。

河川のBOD濃度は順調に改善しており、市内の川の水がきれいであると感じている人の割合はもっと伸びてもよいと感じる。本市の河川や遊歩道を散歩し市内河川の状況を把握する新たなエコスクールを行うなど、本市の水のきれいさを知ってもらう機会を増やすことが重要だと考える。

4 令和4年度（2022年度）以降の取組み方針

・市から事業所に対し、事業所から市民への降下ばいじん対策のより一層の広報について働きかける。

・これまでの降下ばいじん対策を継続しつつ、愛知県を含む行政機関、事業者及び市民と情報共有を深め、より効果的な対策について検討を進めていく。

・市は、広報やホームページを活用し、環境データの積極的な市民周知を行うとともに、市民にわかりやすい情報発信の工夫をしていく。

・河川の水質改善状況が市民に伝わるようなイベントや環境学習を検討する。

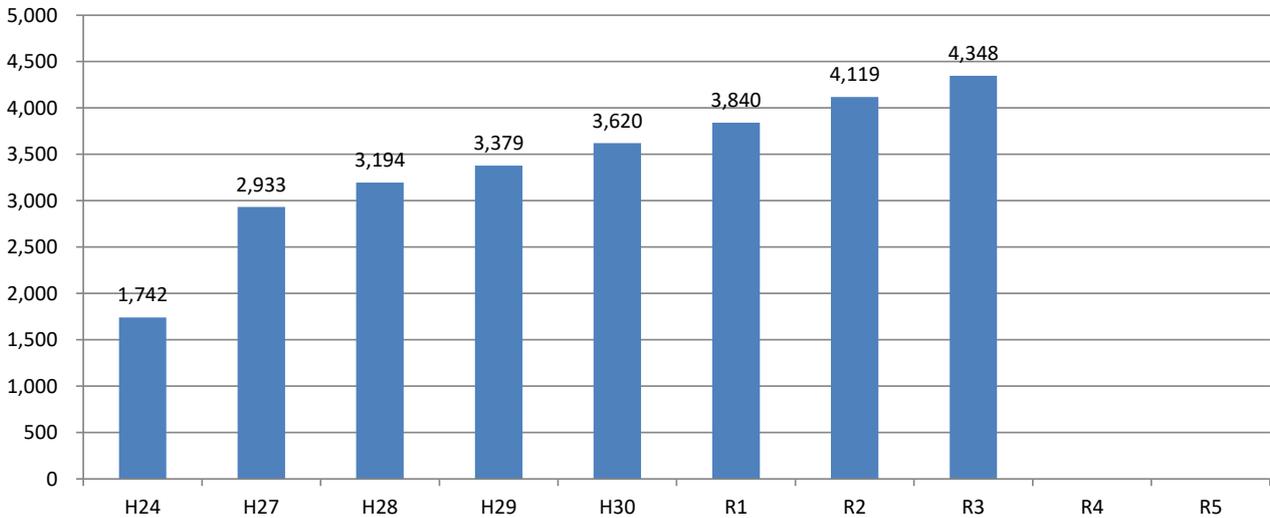
・引き続き悪臭、騒音の監視に努め、苦情があった場合には早期に対応することで、より良い生活環境を守っていく。

環境分野 5

地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

成果指標10 太陽光発電システムの累計設置件数(件)



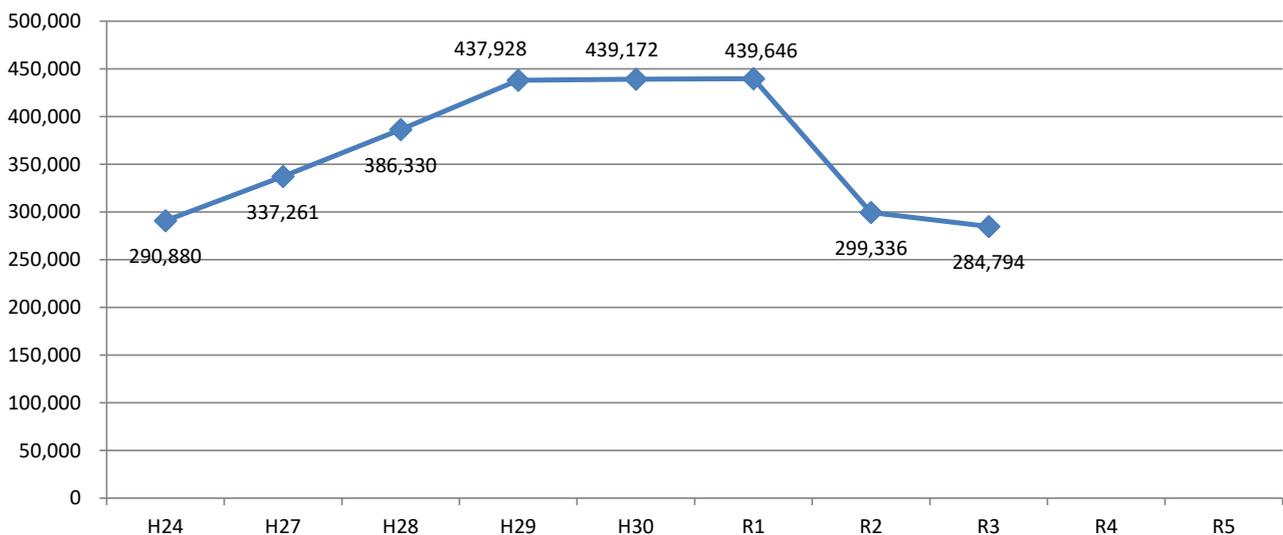
成果指標の分析

累計設置件数は、基準値より2,606件、前年度から229件増加し、順調である。その理由としては、新型コロナウイルス感染症や半導体の不足等の影響で設備導入が滞ったものの、補助金を活用した太陽光発電システム、蓄電池等の普及が市全体で進み、再生可能エネルギーに対する意識が着実に向上しているためと考える。

目指す方向性



成果指標11 らんらんバスの年間利用者(人/年)



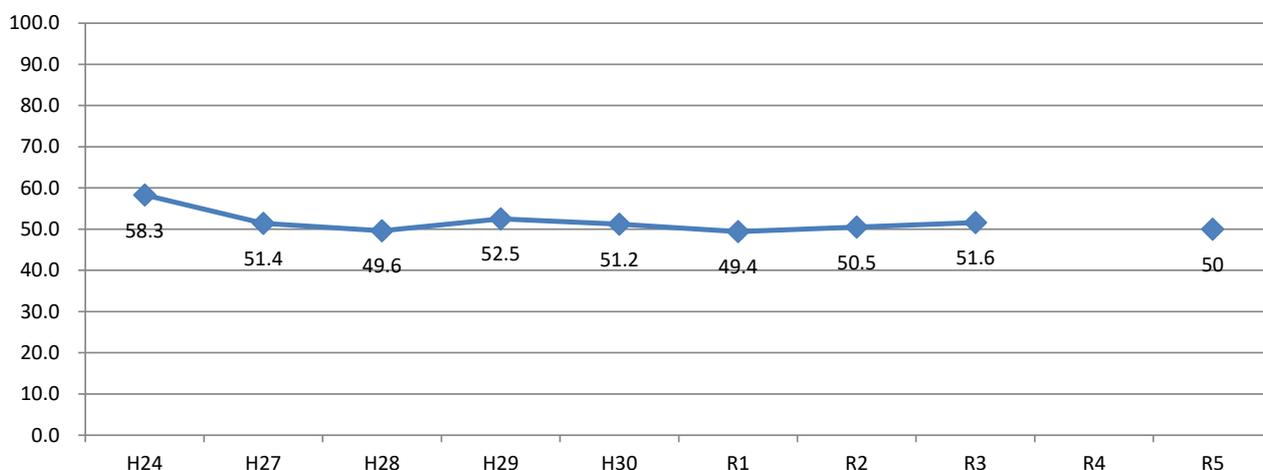
成果指標の分析

基準値より6,086人減少している。新型コロナウイルス感染症の影響により前年度に大きく減少したが、さらに前年度より14,542人減少した。外出自粛や社会全体のデジタル化に伴い、鉄道等も含めた公共交通機関全体で利用者が落ち込んでいることが原因と考えられる。一方で緊急事態宣言発令時以外には、前年度利用実績を上回る月も見られるなど、緩やかな回復傾向も見られる。

目指す方向性



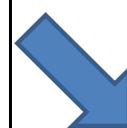
成果指標12 地域内にポイ捨てが目立つと感じる市民の割合(%)



成果指標の分析

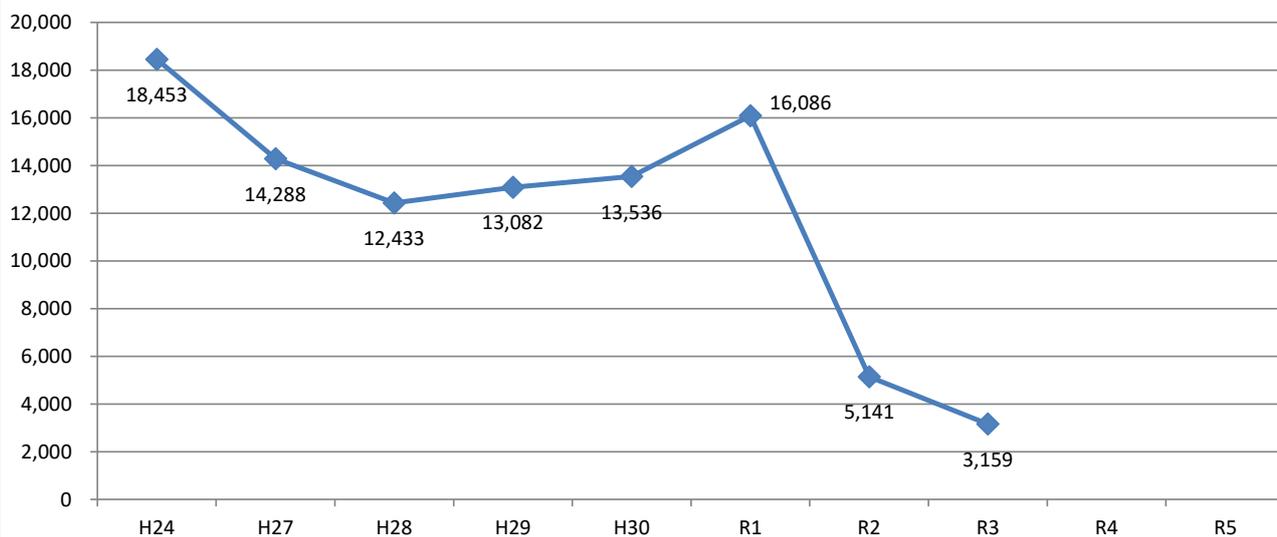
基準値から6.7ポイント改善しているが、横ばい傾向が続いている。学区別では南部地区の割合が低い。年齢別では、20歳代から40歳代の割合が高く、活動量が多い世代ほど道路等のごみを目にする機会が増えることが原因と考える。また、市の地域美化推進事業における道路等のゴミの回収量は減少傾向にあり、ポイ捨てゴミは減少していると考えられる。

目指す方向性



減らす

成果指標13 地域の清掃活動に参加した人数(人)



成果指標の分析

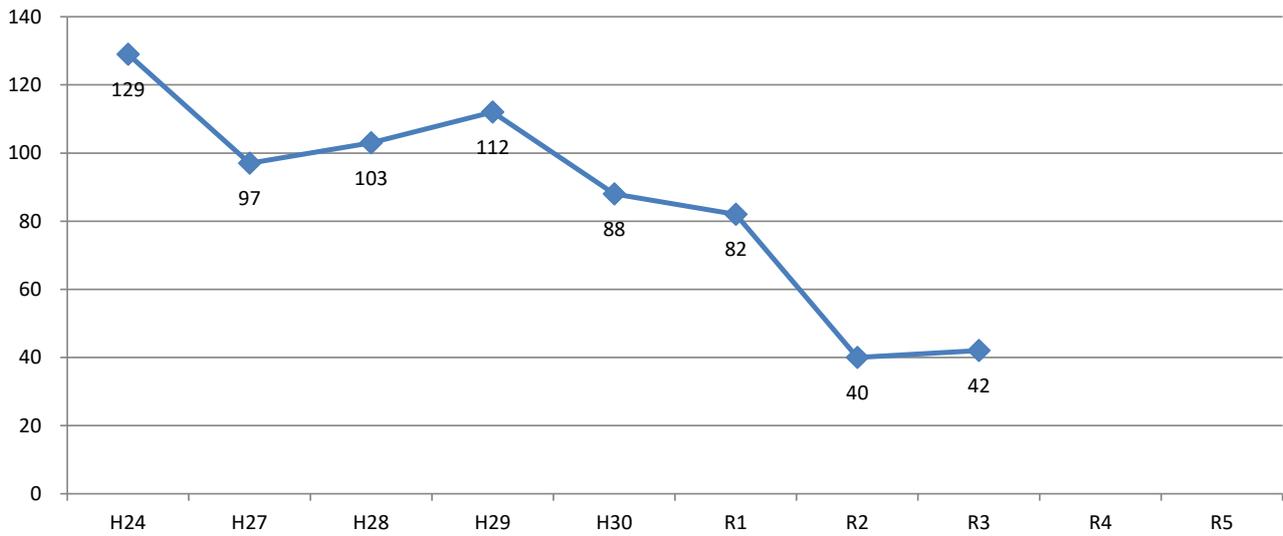
基準値と比べ15,294人減少した。新型コロナウイルスの影響により大きく減少した前年度と比べても1,982人減少している。ごみ散乱防止市民行動月間である6・9月を含む気候のよい時期に、緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が発令されたことにより、コミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動や、事業所・団体の自主清掃活動等の大規模な清掃活動の多くが中止となったことが影響したと考える。

目指す方向性



増やす

成果指標 1 4 地域の清掃活動に参加した団体数(団体)



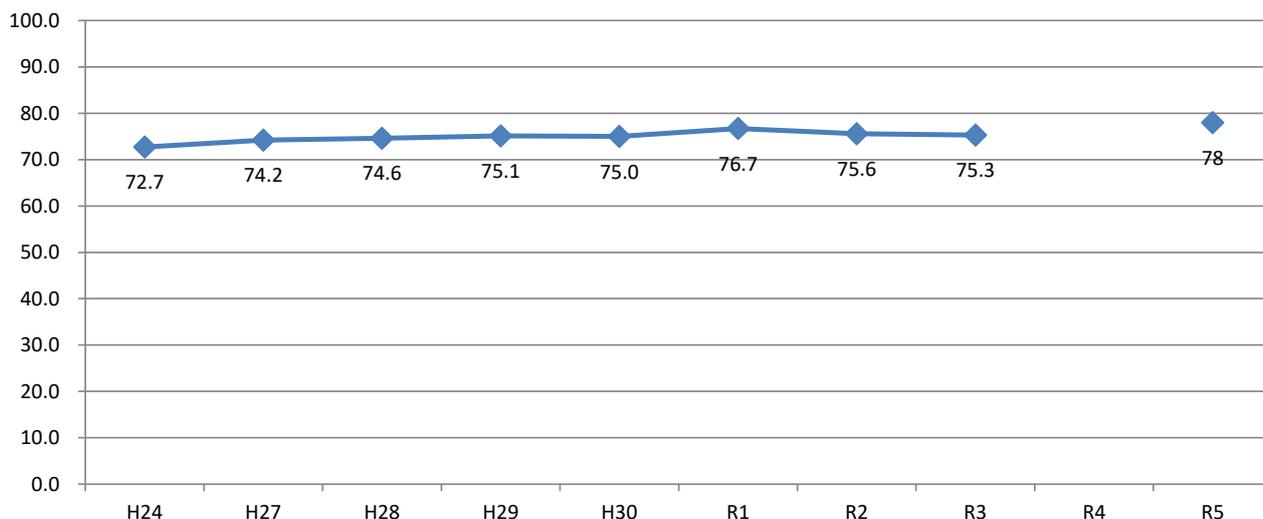
成果指標の分析

基準値と比べ87団体減少したが、前年度より2団体増加した。
 コロナ禍により、ごみ散乱防止市民行動月間のコミュニティ・町内会連合会の一斉清掃活動や、事業所・団体の自主清掃活動等の清掃活動の多くが中止となったことが影響した。一方で、コロナ禍でも感染対策を実施し、小規模で清掃活動を実施する団体が前年度に比べて増えたと考える。

目指す方向性



成果指標15 花や緑が充実していると思う人の割合(%)



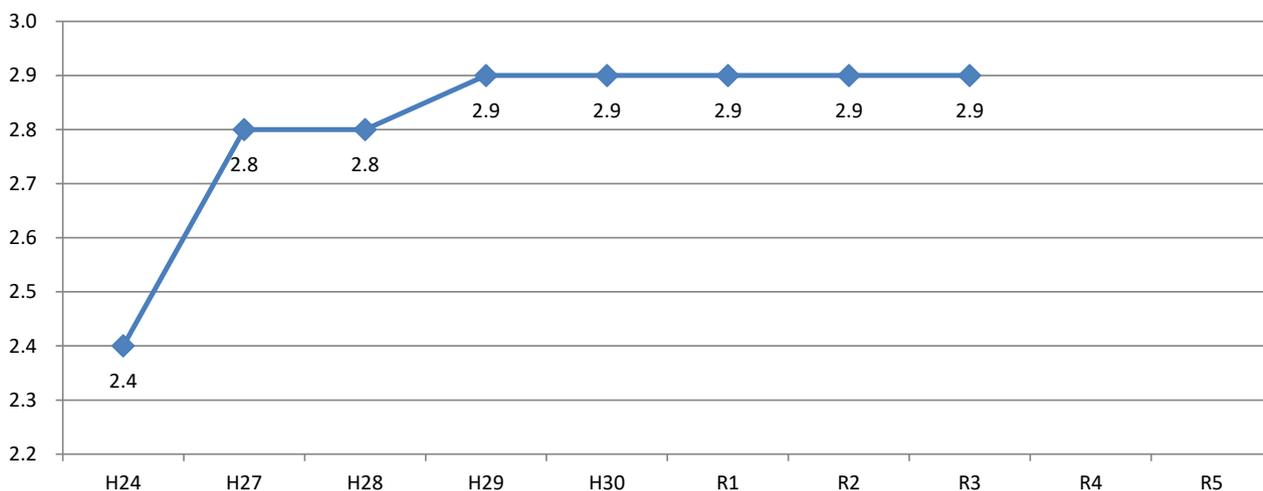
成果指標の分析

目指す方向性

基準値と比べ2.6ポイント増加しているが、前年度と比べ0.3ポイント低下しており、近年は横ばい傾向である。その理由としては、公園緑地整備及び花と緑のまちづくりの推進と、適切な維持管理を実施しているものの、コロナ禍によって花のまちづくり運動等の活動が中止、縮小となったことが要因であると考えられる。

78%

成果指標16 東海市の面積に対する都市公園面積の割合(%)



成果指標の分析

目指す方向性

基準値と比べ0.5ポイント増加しているが、前年度と同数値であり、近年は横ばい傾向である。
都市公園は計画的に整備を進めているが、近年は都市公園の供用開始に至っていないため、横ばいとなっている。



増やす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

引き続き、これまで実施している対策や普及啓発活動を地道に実施するとともに、新型コロナウイルス感染症に対応できるよう「新たな生活様式」に順応した対策を検討していく。
世界的な流れである地球温暖化対策・脱炭素化に向けて、市の公共施設における計画を国のロードマップ等を踏まえ改定するとともに、市域全体の計画の策定に向けて検討を進めていく。また、市民や事業者が身近な問題として認識できるよう地球温暖化対策の啓発を行う。

2 令和3年度（2021年度）の主な事業等

【主な事業】

- （継続）住宅用地球温暖化対策設備導入促進補助事業
再生可能エネルギーの利用の促進のため、住宅用太陽光発電システム、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電システム、家庭用燃料電池システム、電気自動車等充給電設備及び高性能外皮の設置に対して補助をした。
 - ・補助実績 HEMS15件、家庭用燃料電池システム26件、
電気自動車等充給電設備1件、太陽光発電施設との一体的導入32件
- （継続）地域美化推進事業
ごみのないまちづくりを目指すため、不法投棄監視パトロール、不法投棄ごみの回収、道路等公共施設の清掃等を実施した。なお、新型コロナウイルスの影響により、地域美化活動については、活動が大きく停滞した。
 - ・不法投棄監視パトロールによるごみの回収量 9,440kg
- （継続）自然環境再生事業
『ふるさとの自然』を保全・再生し、ホタル、アサギマダラ等の身近な生き物とふれあい、自然環境を守り育てていくことの大切さを学ぶイベントを開催した。
 - ・場所 加木屋緑地
 - ・内容 ビオトープづくり及び植栽会(4回)
 - ・参加者数 166人(4回)

【その他】

地球温暖化対策として、令和4年（2022年）3月に東海市ゼロカーボンシティ宣言を表明するとともに、令和3年（2021年）9月に地球温暖化対策実行計画（事務事業編）※を策定した。
※市が保有する公共施設における温室効果ガス排出量削減に係る計画

3 令和3年度（2021年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標11（らんらんバスの年間利用者数）について、コロナ禍で利用者数が減少しているが、需要を把握し、広い年齢層の利用者数を増やす工夫が必要ではないか。

指標16（都市公園面積の割合）は横ばい傾向が続いているが、市内の森林や水辺の面積は減少していると感じる。指標15（花や緑が充実していると思う人の割合）が横ばい傾向であることを踏まえ、取組内容を検討していくとよい。

4 令和4年度（2022年度）以降の取組み方針

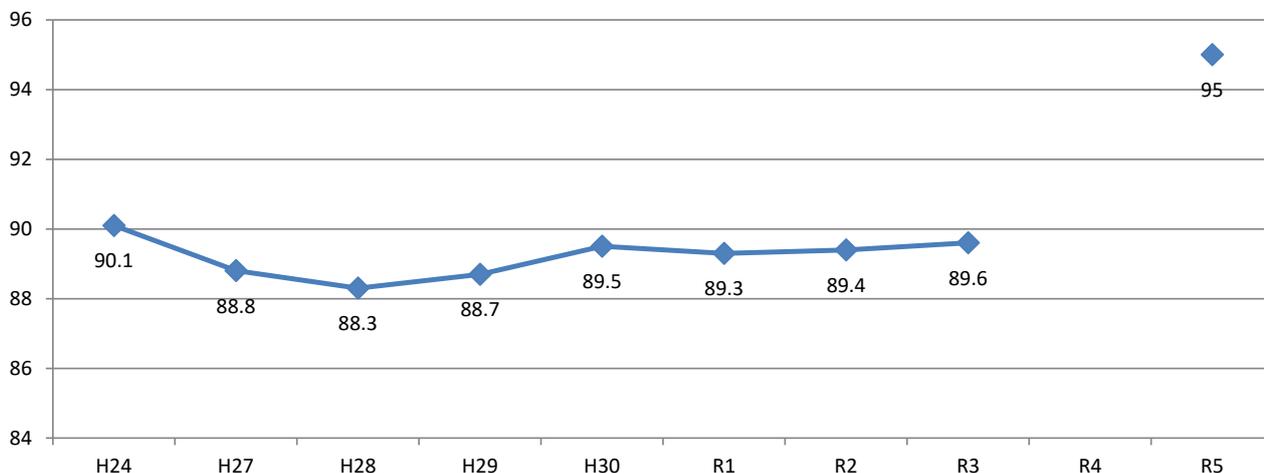
- ・ゼロカーボンシティ宣言を踏まえ、市として地球温暖化対策の計画策定を進めるとともに、計画内容に沿った対策について市民・事業者・市が一体となって推進していく。
- ・コロナ禍が続いた場合でも感染症と共存していくことができるような清掃活動の在り方を検討し、地域美化活動を推進していく。
- ・花や緑が充実していると思う人が増えるように、ハード面の整備だけでなく、自然環境を守り育てていく気持ちを育む取組みをより一層充実させる。

環境分野 8

3 R活動

ごみ減量と資源化を推進する

成果指標17 ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合(%)



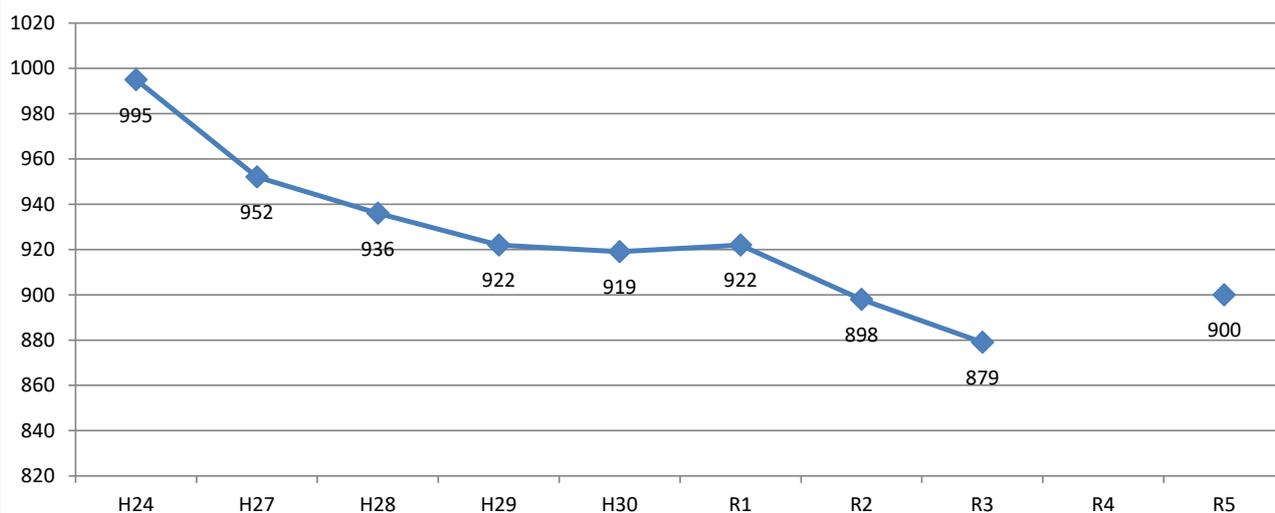
成果指標の分析

目指す方向性

基準値と比べ0.5ポイント悪化しているが、前年度と比べ0.2ポイント改善し、高い割合を継続的に維持しており、横ばいであるが良好な数値である。
年齢別では若い層が低く、また、職業別では学生と会社員・公務員が低くなっており、この状態は基準年度以降続いている。

95%

成果指標18 市民一人当たりのごみの総量(g/人・日)



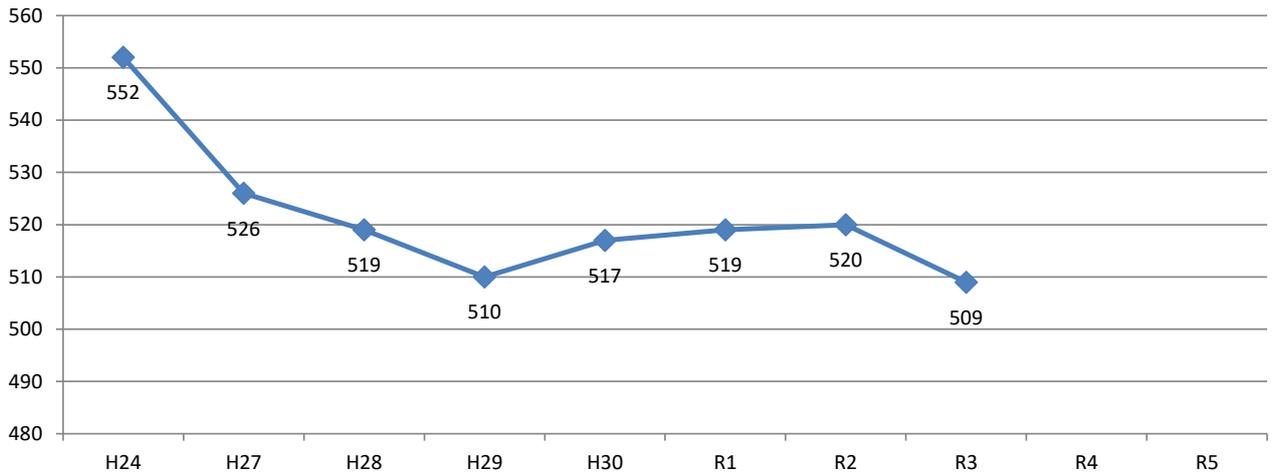
成果指標の分析

目指す方向性

一人1日当たりのごみの総量は減少傾向であり、前年度と比べて19g/人・日減少し、目指す方向性で示された目標値を達成した。
アプリ等により中古品を売買し、再利用する人が増えてきていることや新聞の購読数の減・容器の軽量化が要因と考えられる。

900g/人・日

成果指標19 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量 (g/人・日)



成果指標の分析

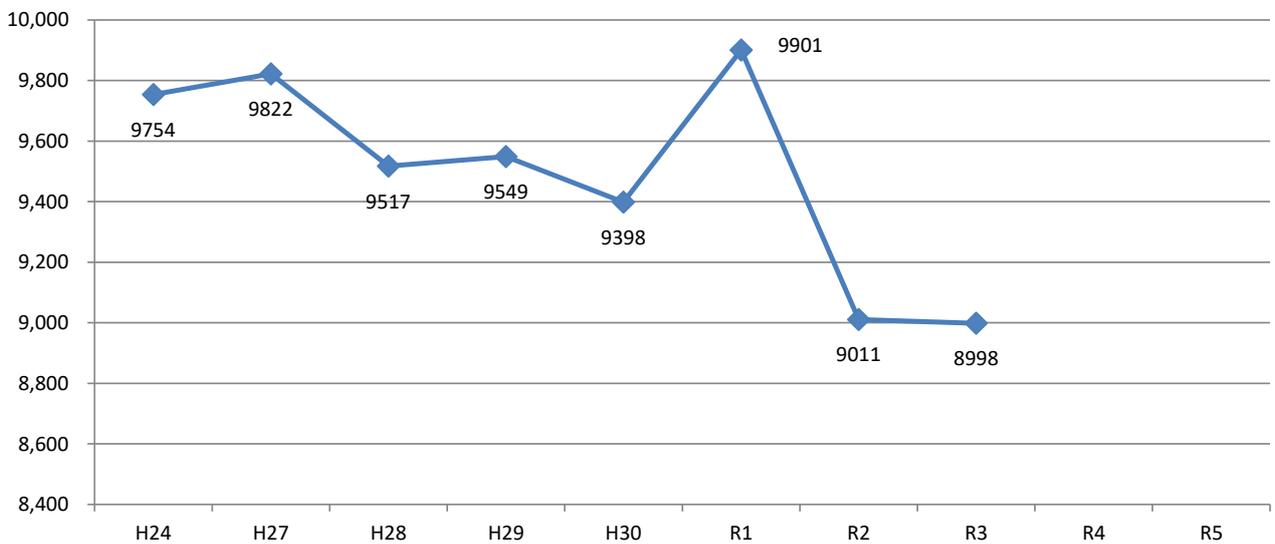
基準値と比べ43g/人・日の改善となっている。前年度の自粛期間中に片付けが落ちついてきたことや各家庭でのごみ減量の取組が要因と考えられる。

目指す方向性



減らす

成果指標20 事業系ごみの総排出量(t)



成果指標の分析

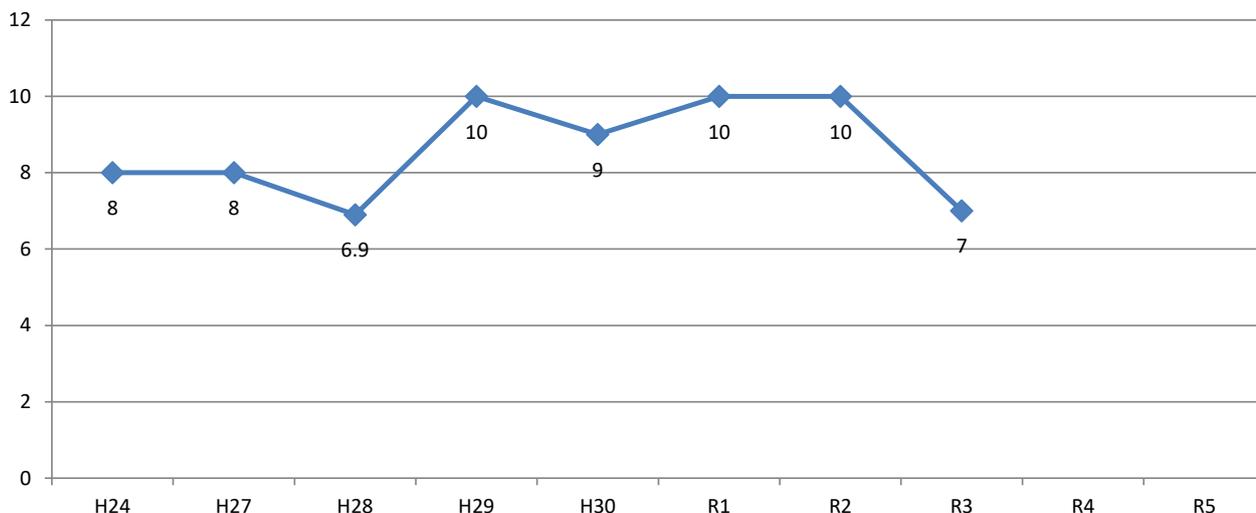
事業系ごみの総排出量は前年度に比べ約13t減少したが横ばいの傾向である。令和2年度に新型コロナウイルス感染症等により民間事業所の活動が縮小し、その状況が令和3年度も続いていることが要因と考えられる。

目指す方向性



減らす

成果指標21 プラスチック製容器包装の不適合物(%)



成果指標の分析

基準値と比べ1ポイント好転しており、過去4年間続いていた横ばいの傾向が終止した。
生活情報アプリや広報での周知を継続をしたことによって、市民の分別の意識が向上し排出する段階で不適合物の除去がされていたことが要因と考えられる。

目指す方向性



減らす

1 前年度の基本計画推進委員会で設定した今後の取組方針

ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合について、若年層に改善の余地が大きいいため、生活情報アプリを始めとした市の情報媒体によって啓発活動を行っていく。

また、令和3年度に実施する3Rを活用した片付け講座の結果、反響を踏まえ、終活、家財整理等により大量に排出されるごみの減量のための啓発について検討する。

2 令和3年度（2021年度）の主な事業等

【主な事業】

●（継続）3R活動講座等運営事業

東海市エコスクール関連講座「エコって工作2021」及び、（新規）「3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～」を開催した。

(1) エコって工作2021

- ・開催日 R3(2021). 8. 21
- ・内容 紙パックなどの不用品を活用した工作・雑貨製作体験
- ・参加者数 50名

(2) 3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～

- ・開催日 R3(2021). 7. 10
- ・内容 3Rを活用し、環境に配慮した片付けの仕組みを学ぶ講座
- ・参加者数 30名

●（継続）資源集団回収事業

ごみの減量と再資源化を推進するため、町内会・自治会・子ども会等が行った資源の集団回収を支援した。

- ・団体数 107団体 ※R3(2021). 4. 1時点
- ・回収品目 紙類、缶類、びん類、布類
- ・回収量 2,065 t

【成果】

高齢者層の増加及び終活意識の向上に伴うごみの排出量の削減のため、「3Rで住まいを整える～エコで得する！お片付けセミナー～」を開催し、参加者のアンケート結果が良好であった。なお、今後もセミナーを継続開催するもの。

3 令和3年度（2021年度）事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価

指標17（ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合）は、目標値の95%に対して89.6%と達成はしていないものの、若干微増しており、近隣市町で同様なアンケートの結果を比較すると、ニュアンスに違いはあるが東海市は十分に高い割合を継続していると考えられる。また、職業別でターゲットを絞った対策は難しいため、地道に啓発活動を継続する必要がある。

指標18（市民一人当たりのごみの総量）について昨年度に引き続き目標値を達成した。理由は、事業系ごみの減量や家庭系ごみの減量が影響しており、減量の意識が広く浸透していること、断捨離ブームが落ち着き、新規に捨てる物が減ったことが要因と考える。

指標21（プラスチック製容器包装の不適合率）の結果は好転しているが、雨量により不適合物率の結果が左右される場合もあるため、努力の結果好転したのか傾向を見る必要がある。

また、市民のリサイクル意識が高まっているが、経済環境の影響によりごみの量全体が減少する傾向がある。このような状況の中で、これからの施策を考える必要がある。

4 令和4年度（2022年度）以降の取組み方針

・取組等が幅広い世代に伝わるよう、生活情報アプリを始めとした市の情報発信媒体を活用した啓発活動を継続する。また、市民一人当たりのごみの総量の目標を達成したことのPR及び更なるごみの減量及び資源化の取組が推進されるような効果的な情報発信方法について検討する。

・「プラスチック資源循環促進法」が施行されたため、プラスチックごみの削減及び資源化を促すとともに、排出段階でペットボトル等の不適合物を除去するよう啓発する。

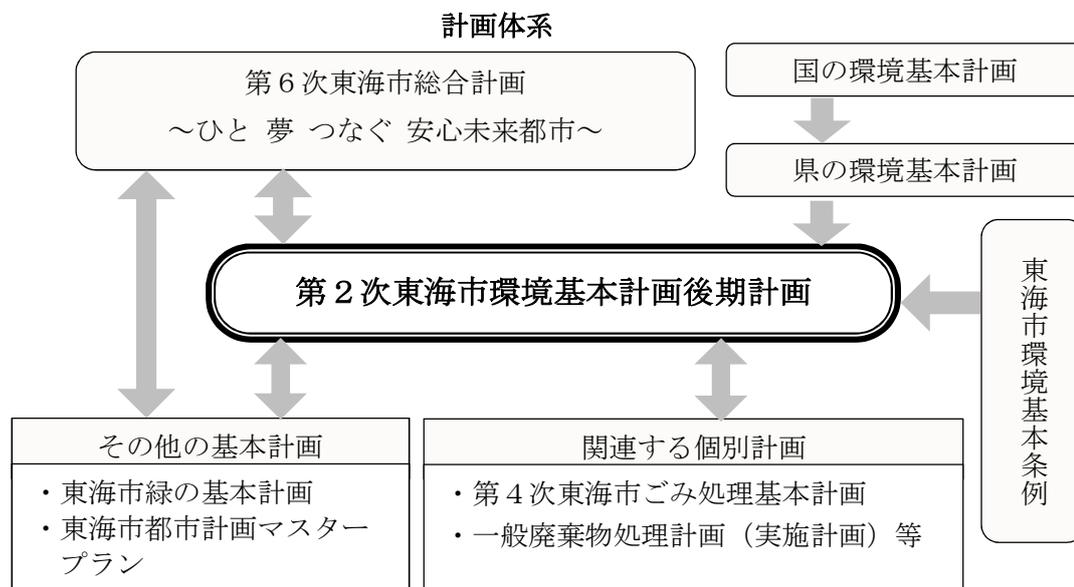
参考資料

1. 環境基本計画の概要

(1).計画の推移及び体系

本市では、平成17年(2005年)に「東海市環境基本条例」を制定し、この条例に基づいて、平成19年度(2007年度)に「東海市環境基本計画」を策定しました。本市は、この計画にビジョンとして掲げた「未来につなぐ 美しいふるさと東海」を実現するため、市民、事業者、地域・団体、行政の協働を推進し、さまざまな環境施策を推進してきました。

平成28年度(2016年度)には、本市を取り巻く課題や社会環境の変化に対応するとともに、環境行政の適切な運用に役立てるため、「第2次東海市環境基本計画」を策定し、さらに、令和元年度(2019年度)には、平成30年度(2018年度)に上位計画である第6次東海市総合計画後期計画が策定されたことを受けて、「第2次東海市環境基本計画後期計画」を策定しました。



(2).計画の期間

上位計画である第6次東海市総合計画の施策や指標との整合性を図るため、次のとおりの期間としています。



(3).計画の推進主体

本計画の推進主体は、市民、事業者、地域・団体、行政です。それぞれの立場でそれぞれの役割を担い、相互に連携を図りながら、積極的に行動することが必要です。

(4).計画のビジョン

本市では、公園や緑地の整備による美しいまちづくりや、下水道整備による河川等の浄化、気軽に健康づくりのできる環境の提供など、市民生活を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを行ってきましたが、近年は、地球規模で進む温暖化や、生物多様性に対する環境問題等への関心が高まってきています。

第2次東海市環境基本計画では、東海市環境基本計画のビジョンである「未来につながる美しいふるさと東海」の将来都市像を継承し、環境に配慮したまちづくりと持続可能な循環型社会の実現を目指して、美しいふるさとの東海市を未来に届けていきます。

<ビジョン>

未来につながる 美しいふるさと東海

快適な市民生活の再生と創造が進み、多くのひとが環境に配慮した行動を行うことや、身近な場所での生き物とのふれあいを通じて感動が生まれています。

そして、さまざまな世代のひとが健康に暮らしている「美しいふるさと東海市」に愛着を持ち、子どもたちがふるさとに誇りを持って生活している未来へとつなげています。

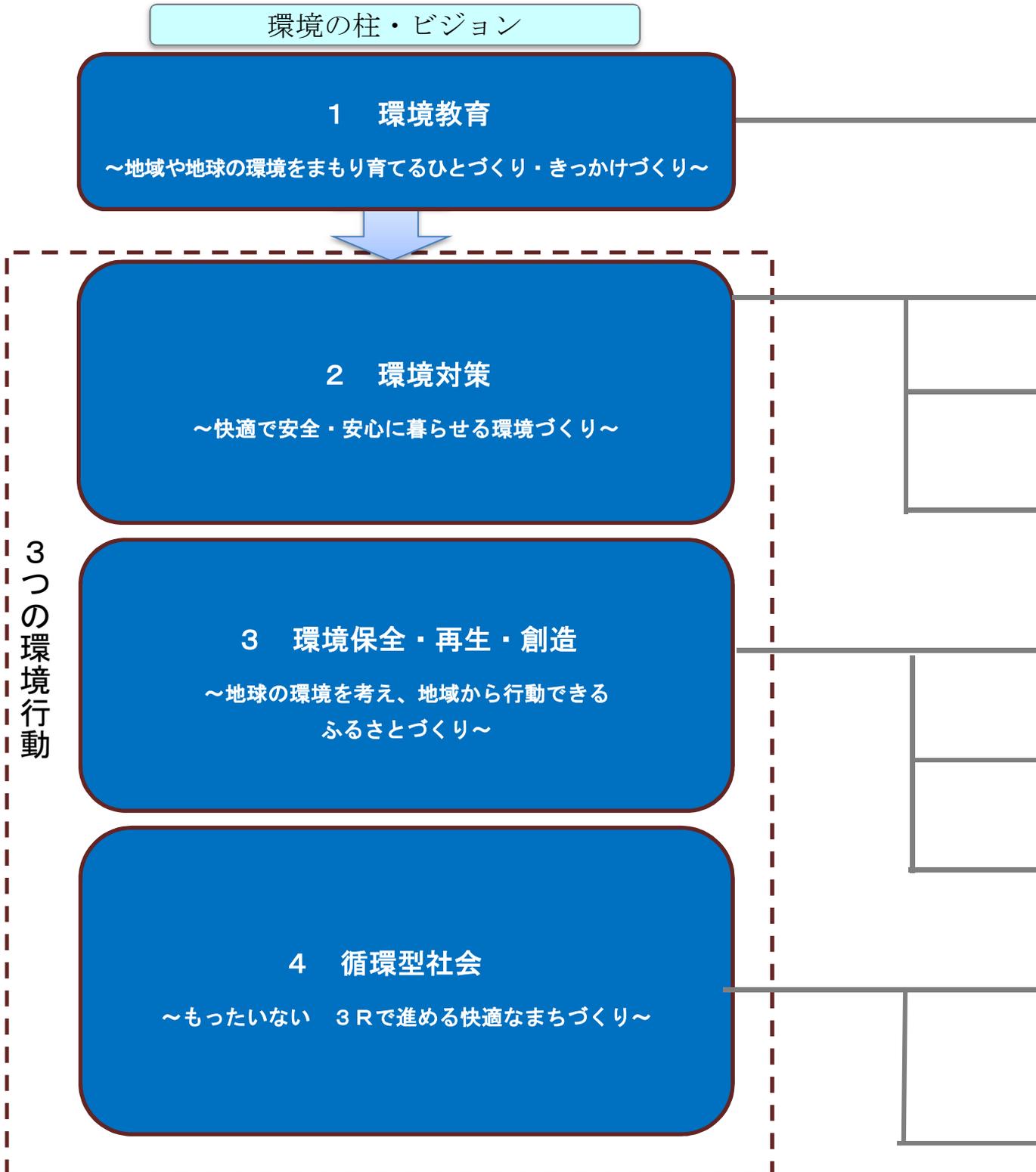
<めざすふるさとの姿>

- 多くの市民が環境にやさしい行動をしています。
- 空気がきれいで、快適に暮らしています。
- 地球温暖化に関心を持つ人が増え、温室効果ガスの排出抑制に努めています。
- 緑（公園・緑地）や水（河川・池）がつながり、生物が身近に生息し、人と自然が共生しています。
- 「もったいない」意識が高まり食品ロスなどが少なく、ごみの分別が徹底され、資源が循環しています。

2. 環境の柱ごとの基本的な施策

1. 体系図

「環境教育」と、「環境対策」、「環境保全・再生・創造」、「循環型社会」の3つの環境行動が連携し、環境ビジョン「未来につなぐ 美しいふるさと東海」の実現を目指します。



環境分野・基本的な施策

行動計画

★環境教育

環境教育を推進する

環境教育・学習の推進

環境保全活動の担い手づくり

★大気・ばいじん

きれいな空気を守る

大気の調査・監視

公害の防止

★悪臭・騒音

悪臭・騒音の発生を抑える

悪臭対策

騒音対策

★水質

生活排水を適切に管理する

水質の調査・監視

水質環境の改善

★地球温暖化対策

低炭素なまちづくりを目指す

省エネルギーの推進

再生可能エネルギーの活用

低炭素型まちづくり

★環境美化

まちの環境美化を推進する

美化活動の推進

★緑・水・生き物

人と自然が共生できるように環境保全活動を推進する

緑地の保全・持続可能な利用

水環境・水循環の保全・持続可能な利用

生物多様性の保全・持続可能な利用

★3R活動

ごみ減量と資源化を推進する

リデュースの推進

リユースの推進

リサイクルの推進

★適正排出・処分

適正にごみの排出・処分を行う

ごみの適正排出・処分

3. 成果指標の算出方法

| 成果指標 | | 算出方法 |
|-------------------|--------------------------------|--|
| 環境の柱1 環境教育 | | |
| 1 | エコスクールの参加者数 | 1年間のエコスクールの参加者数（事務局、保育園、公募及び関連講座分） |
| 2 | 生活情報アプリの累計ダウンロード数 | 1年間の生活情報アプリのダウンロード数 |
| 環境の柱2 環境対策 | | |
| 3 | 大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合 | 市民アンケートで「はい」と回答した人の数/アンケート回答総数×100 |
| 4-1 | 降下ばいじんの量 （市内平均） | 市内10箇所ですべて毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/10箇所 |
| 4-2 | 降下ばいじんの量 （北部平均） | 市内北部地域5箇所（一番畑保育園、名和児童館、名和町吹付、名和東児童館、上野中学校）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所 |
| 4-3 | 降下ばいじんの量 （南部平均） | 市内南部地域5箇所（ソラト太田川、文化センター、養父児童館、横須賀中学校、三ツ池保育園）で毎月測定した数値の各測定地1年間の平均値の合計/5箇所 |
| 5 | 環境騒音基準値の適合率 | 環境騒音測定地点（市内6箇所）×2区分（昼間・夜間）で計12測定値が環境基準に適合している割合 |
| 6 | 自動車交通騒音基準値の適合率 | 自動車交通騒音測定地点（市内5箇所）×2区分（昼間・夜間）で計10測定値が要請限度を超えない割合 |
| 7 | 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合 | 市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100 |
| 8 | 土留木川のBOD濃度 | BOD濃度の1年間の平均値（土留木川 竜ノ脇交差点） |
| 9 | 大田川のBOD濃度 | BOD濃度の1年間の平均値（大田川 大宮橋） |

| 成果指標 | | 算出方法 |
|-------------------------|---------------------------|--|
| 環境の柱3 環境保全・再生・創造 | | |
| 10 | 太陽光発電システムの累計設置件数 | 中部電力株式会社と売買契約を締結している契約数の累計 |
| 11 | らんらんバスの年間利用者数 | 1年間のらんらんバスの利用者数 |
| 12 | 地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合 | 市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100 |
| 13 | 地域の清掃活動に参加した人数 | この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計人数 |
| 14 | 地域の清掃活動に参加した延べ団体数 | この1年間で環境月間及び環境衛生月間の清掃活動に参加した企業・事業所、コミュニティ、町内会・自治会、子ども会、母親クラブなどの合計団体数 |
| 15 | 花や緑が充実していると思う人の割合 | 市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100 |
| 環境の柱4 循環型社会 | | |
| 16 | 東海市の面積に対する都市公園面積の割合 | 市内の都市公園面積/東海市の面積×100 |
| 17 | ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合 | 市民アンケートで「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の数/アンケート回答総数×100 |
| 18 | 市民一人当たりのごみの総量 | 【1年間のごみ(家庭系・事業系(可燃物+不燃物))の清掃センターへの総搬入量+分別収集・資源集団回収・ごみ集積場で回収した1年間の資源回収量+市で把握している民間で回収した1年間の資源回収量】/年間日数/人口 |
| 19 | 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量 | 1年間の家庭ごみ(可燃物+不燃物)の清掃センターへの総搬入量/年間日数/人口 |
| 20 | 事業系ごみの総排出量 | 1年間の事業系可燃ごみの総重量+事業系不燃ごみの総重量 |
| 21 | プラスチック製容器包装の不適合混合率 | 1年間に回収したプラスチック製容器包装の不適合物の混入割合。 プラスチック製容器包装に含まれる不適合物の総重量/プラスチック製容器包装収集量の総重量 |

4. 成果指標一覧表

| | 成 果 指 標 | 基準値 H24 | R3 | めざそう値(R5) めざす方向性 |
|-----|--------------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | エコスクールの参加者数 | 971 人 | 751 人 | ↗ |
| 2 | 生活情報アプリの累計ダウンロード数 | - | 16,158 件 | ↗ |
| 3 | 大気汚染などにより、日常生活に支障があると感じている人の割合 | 45% | 54.2% | 40% |
| 4 | 降下ばいじんの量(市内平均) | 3.9t/km ² ・月 | 3.7 t/km ² ・月 | 3.3 t/km ² ・月 |
| 4-2 | 降下ばいじんの量(北部平均) | 2.8t/km ² ・月 | 3.0 t/km ² ・月 | 2.5 t/km ² ・月 |
| 4-3 | 降下ばいじんの量(南部平均) | 4.9t/km ² ・月 | 4.3 t/km ² ・月 | 4.0 t/km ² ・月 |
| 5 | 環境騒音基準値の適合率 | 66.7% | 75.0% | ↗ |
| 6 | 自動車交通騒音基準値の適合率 | 80% | 100% | ↗ |
| 7 | 市内の川の水がきれいであると感じている人の割合 | 26.4% | 31.6% | 30.9% |
| 8 | 土留木川の BOD 濃度 | 16.0mg/ℓ | 6.0 mg/ℓ | ↘ |
| 9 | 大田川の BOD 濃度 | 2.6 mg/ℓ | 1.7 mg/ℓ | ↘ |
| 10 | 太陽光発電システムの累計設置件数 | 1,742 件 | 4,348 件 | ↗ |
| 11 | らんらんバスの年間利用者数 | 290,880 人/年 | 284,794 人/年 | ↗ |
| 12 | 地域内にごみのポイ捨てが目立つと感じている人の割合 | 58.3% | 51.6% | 50% |
| 13 | 地域の清掃活動に参加した人数 | 18,453 人 | 3,159 人 | ↗ |
| 14 | 地域の清掃活動に参加した団体数 | 129 団体 | 42 団体 | ↗ |

| | | 基準値 H24 | R3 | めざそう値(R5) めざす方向性 |
|----|-----------------------|------------|-----------|---------------------|
| 15 | 花や緑が充実していると思う人の割合 | 72.7% | 75.3% | 78% |
| 16 | 東海市の面積に対する都市公園面積の割合 | 2.4% | 2.9% | ↗ |
| 17 | ごみ減量、リサイクルを心がけている人の割合 | 90.1% | 89.6% | 95% |
| 18 | 市民一人当たりのごみの総量 | 995g/人・日 | 879g/人・日 | 900 g/人・日 |
| 19 | 市民一人当たりの家庭系ごみの排出量 | 552 g/人・日 | 509 g/人・日 | ↘ |
| 20 | 事業系ごみの総排出量 | 9,753 t | 8,998 t | ↘ |
| 21 | プラスチック製容器包装の不適合物混合率 | 8.0% | 7.0% | ↘ |

5. 計画推進の検討過程

- 令和4年（2022年）6月2日 第1回東海市環境基本計画推進委員会
「年次報告書の成果指標の評価について」
- 令和4年（2022年）8月26日 第2回東海市環境基本計画推進委員会
「令和3年度事業に対する推進委員の意見及び全体的な評価」
「令和4年度以降の取り組み方針について」
- 令和4年（2022年）12月26日 第3回東海市環境基本計画推進委員会
「令和4年度（2022年度）版年次報告書について」
「令和5年度（2023年度）以降の取組（ゼロカーボン関連）について」

6. 環境基本計画推進委員会委員名簿

本年次報告書の作成にあたり、検討を行った委員を掲載

令和5年（2023年）1月時点

| 役 職 | 所属部会 | 氏 名 | 区 分 |
|-----------------------------|-----------|---------|------------|
| 委 員 長 | 社 会 環 境 | 山 本 隆 明 | 事業者を代表する者 |
| 副 委 員 長 社会環境部会長 | 社 会 環 境 | 寺 島 賀 子 | 事業者を代表する者 |
| 副 委 員 長 生活環境部会長 | 生 活 環 境 | 吉 原 雅 哉 | 事業者を代表する者 |
| 副 委 員 長 廃棄物・リサイクル 部会長 | 廃棄物・リサイクル | 深 谷 保 | 事業者を代表する者 |
| 委 員 | 社 会 環 境 | 近 藤 高 史 | 事業者を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 牲 川 順 一 | 事業者を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 長谷川 貴 子 | 市内に在住する者 |
| 〃 | 生 活 環 境 | 南 川 陸 夫 | NPO を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 武 富 時 満 | NPO を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 吉 鶴 弥 生 | 市内に在住する者 |
| 〃 | 〃 | 加 古 博 之 | 市内に在住する者 |
| 〃 | 廃棄物・リサイクル | 古 谷 仁 彦 | NPO を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 毛 利 まり子 | NPO を代表する者 |
| 〃 | 〃 | 田 中 治 幸 | 市内に在住する者 |
| 〃 | 〃 | 森 岡 良 枝 | 市内に在住する者 |

令和4年度（2022年度）版
環境基本計画年次報告書

●発行

令和5年（2023年）1月

●編集

東海市 環境経済部 生活環境課
清掃センター

東海市環境基本計画推進委員会

●お問い合わせ先

東海市 環境経済部 生活環境課
〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地
TEL 052-603-2211/0562-33-1111
FAX 052-603-6910
URL <http://www.city.tokai.aichi.jp>
E-mail kankyous@city.tokai.lg.jp
